

崩壊熱核データW.G., 51年度第1回会合議事録

日 時 昭和51年6月4日(金) 13時30分~17時30分
場 所 原研本部第34会議室
出席者 飯島俊吾, 梅沢弘一, 大竹巖, 田坂完二, 田村務, 中嶋龍三, 宝珠山健, 松本純一郎, 山田勝美, 吉田正
オブザーバー: 飯田正明(N A I G)

議 事

1. Nuclear Regulation Committee の手紙に基いて, 米国における最近の崩壊熱研究状況の紹介(吉田)
各研究機関の研究計画(実験, 計算, 評価)を紹介した。冷却時間10秒乃至200秒で, Shur よりやや低い値が動告されるであろう。
2. NEACRP に対する James の報告について(飯島)
NEACRP-A-240 を紹介した。計算結果と実測値との比較。
3. 核構造データ収納プログラムについて(宝珠山, 松本)
 - 収納データの抽出プログラムについての説明があり, 原研でテストした結果についての報告があった。
 - テストはまだ十分ではないので, 今後引続いてチェックする。抽出の方法については, 修正や追加が可能なので, 今後要望に応じて手を加えることにする。
4. Nuclear Structure and Decay Data for Applications の Advisory Group Meeting 報告(田村)
 - 資料に基づいて報告があった。
 - ORNL のデータ・ファイルの利用可能性, およびわれわれの核構造データ収納プログラムとの関連について議論があった。
 - 田村氏が IAEA に提出された資料について若干の修生をお願いすることになった。

5. 51年度計画

- I) 核構造データ収納プログラムの完成とその利用(継続)
- II) データ収集(継続)
- III) GROSSコードの利用と系統性の研究(継続)
- IV) β , γ のエネルギー・スペクトル計算コードの作成を年度内に試みる。
- V) 熱計算コードのマニュアルを秋までに作成する。